



114
A1044



當為智會社と領業し郵便船會社又保險

社轉業し義有社内意伺書

當為智會社と領し意有船會社轉業加入し及保險

社創立し義有右處分方法別紙を續書し應に取扱度因る

郵便船會社頭元共し打合わしり事異見無き有る

株主一同の決議を經可しと申ゆえ得共右條件中向後之西趣

向矛盾あり義も劣りある不拍角議定あるも空論一可也

無念仕り付一應少口慮事伺有る早々何分の區指揮等作是

明治九年一月廿日 為智會社重立取扱人

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈



大藏省御中

當為督會社、諸勘定向之取理、其計算割合を明瞭
より以て其業之額、向後此株主等之望、依其株高割
合を以郵便蒸子船會社、株主之轉じり又ハ新創するに
し保險社、株主より、も付當會社、重立取扱等ハ此
手續と考定せり

第一條

當為換會社、株高額、金高發行金差、諸方の換借之貸
附高、金差準備金、諸方の督會社、即今會社者、金、後、未、會社、法、入
費、特別、勘定、差、列、書、之、通、り、是、は、今、細、之、之、帳、計、之、現、之、若、平
損失あり付、滞り貸金等、損失あり、
更しく勘定書に明かり此際之と鎖業、も付る者、株主

等ハ都々其株高ニ應ル其損失割合を受ケル理有ル也

此計算ハ即今ノ目的ヨリテ其期限ハ貨附金ノ額多

クモハ一時ハ割合ヨリテ決算モ得ル也

第二條

然ルレトモ此轉業ニ付ル當會社起立以來ノ修改ニ依
官府ニ補給ヲ懇願シ其允裁ヲ得ルハ其割合ヲ裁
減ノ損耗ヲ減ス

第三條

故ル今當會社ノ株主タル者ハ此鎖業會金ノ脱社セんと欲スル
ときは先第一ノ計算ニ依リ株高ノ内ノ其損失割合ヲ引去リ其

諸貸附金外ノ計算結局ニ依リ之ヲ割賦ス

第四條

又ハ鎖業會社ノ株高ニ轉ルニ應ル船會社加入モ又ハ新
創立スル保險社ノ株主タル者ハ第二ノ計算ニ依リ其損
失ノ割合ニ殘餘ノ金高ヨリテ直ニ兩社ノ資本ニ加入セ

第五條

郵便船會社資本金ノ内後未當會社ノ貸出タル金額ハ
其返済ノ約束モ別紙規則ニ依リ先ニ決約シ其後當會社
株主等ノ口蓋船會社ノ轉業加入ノ望ム者多クモ是也
同社ノ約束ヲ停止し更ニ右貸附金高ニ依リ其株高

この振替に

第六條

郵便船會社は此轉業加入者多きときは別府官府に准
先と乞ふて其資本總額を充てたる株切手発行を為し其株主
者ハ其之其高相當の株切手を渡さす
此切手は年々未利の積を以て
官府に引渡すべし
以て會社に何れも換ふゆゑも株主ハ其資本金に未利を以て得
尤も會社に利益を以て未利は株主に唯其罰金を受るべし
右に付今當り會社より郵便船會社轉業加入者ハ株切手發行
の後之を多きものは勿論同價にて他人に賣渡す可き金額を受え
全く關係を脱するも亦其者に注意せしむ

第七條

第八條

又保險社加入を望む者も勿論其株高割合を郵便船會社轉
業と同様にして保險社の規則に別定する可き法に従ひ同一考案によ
更其精確を求む株高決定の後官符に准乞ふべし

第九條

船が難破時今サスレ日ハ以て本
失之定むべし改めし

此文其之法を嚴肅しし決る資本の額を定むる故に其船舶
物貨の難事無く於て其資本を増加する利益の外に更に殖益する事
當り

之口、振替也

第六條

郵便船會社ハ此轉業加入者多キトハ別段官府ニ准
允ト乞フテ其資本總額ヲ充テ其株切手発行ヲ為シ其株
者ハ盡ク其高相當株切手之渡シ也
此切手ハ年々未利ノ積ニ依
官府ニ引渡シテ人ノ手ニ出
ル
以テ會社ノ何種ノ振替也トモ株主ハ其資本金ニテ未利ノ積ニ得
尤モ會社ノ利益未利以上之利ハ株主ニテ唯其罰金を受テ之ヲ得也

第七條

右ノ付今當ル會社ノ郵便船會社轉業加入者ハ其株切手發行
ノ後之を必要多クモ其切手同價ト他人ノ手渡シテ其金額を受テ
金ノ關係ハ股主ノ手ニ其者ノ隨意トス

第八條

又保險社加入ト望ム者ハ勿論其株高割合ハ郵便船會社ノ轉
業と同様トシテ保險社ノ規則ハ別ニ制定スルニ決シテ後ニ同ノ考慮
更ニ其精確ヲ求ル株高決定ノ後ハ官府ニ准允ト乞フ也

第九條

保險社ノ資本金ハ其集合高ト不殘官府又ハ第一國之銀行ノ預
込メクモ年々未利ノ積ニ得テハ其保險ノ船舶物貨等ノ可
成丈其方法ノ嚴肅ニ決シテ資本額ノ額ニ超スルコトハ其船舶
物貨ノ難事無ク於テ其資本ノ増加スル利是ノ外ハ更ニ殖益ヲ求
當然也

第十條

後來當會社預り以。諸款入金ハ當會社預業に付之返却
し其株主トモ一

第十一條

兩社加入ノ高ハ之を限る一
其田以上を兼テ船會社加入是區實附青
界三ノ田歸去凡七拾五以上を以テ保濟
社ノ株主トモ一

第十二條

右ノ方法を以テ兩社又兩社加入ノ見込決定セテ當會社金

廢停を得一ト云一トモ高定書ト記ト如ク期限ハ貸附金ト取立
又ハ又算等ノ事ハ是トハ又此ノ名義存在ノ事ト別取官府
ニ准允ト乞フ也一

但是ハ取立又ハ又算等ノ便を得る為メ是トハ向後其實地ノ事務
ニ勿論之ヲ廢停トモ一

第十三條

當會社發行ノ金券ハ此見込決定セテ官府ニ乞フテ速ニ世若
公告一凡來ニ十月限リ當社方金ニ入金之ヲ兌換ス一

第十四條

當會社ノ家作倉庫及地面ノ類ハ相當ノ價之ヲ以テ新立ニ保濟社

江漢渡き一

第十五條

前第十四條之當會社領業改轉之要否ハ其決議を得
 小於ハ尚其細務ニ得共ニ決スルモ古等々全枝業
 件ニ要否ハ決定ト取扱人等ノ考案ニ依テ相當之ニ處分
 右者當爲換會社領業改轉ニ其要否ハ要前條ニ通考定
 小一者此會社ニ株主ニシテ審ニ以テ決スル得尚見
 考案ニ事ハ各其株高ニ應テ免脱スル得也一尤ハ
 決議於ハ株高之五分以上ノ同議ニ依テ之ニ決判スル有株
 主者能ハ決議ノ効力一且決議ハ各異議存否等アリ

ハ其就ハハ考定ニ條件ハ同意ニ方ハ各名前下ニ印
 印ナシハハ又異見有リハ別決ニ其後出可也

明治十年五月一日 爲會社重立取扱人

株主連名

